

鎌倉攬勝考

うえだ・もうしん

作者: 植田孟縉 (1757-1843)

成立: 文政12年(1829)



解題

Keyword

- 鎌倉
- 「新編鎌倉志」
- 「新編武蔵風土記稿」
- 「新編相模国風土記稿」
- 八王子千人同心
- 「日光山志」

鎌倉を中心に、江の島・金沢も含む地誌。江戸時代後期の成立。江戸初期に編纂された『新編鎌倉志』(#20)に欠けている部分を補い、さらに詳しい解説を加えている。鎌倉の地誌として『新編鎌倉志』と並ぶ重要な地位を占める。

■ 成立経緯

文化7年(1810)昌平坂学問所の大学頭・林述斎(はやし・じゅっさい)は、江戸幕府に建議して諸国の地誌編修に着手した。事業は地誌調所が担当し、天保13(1842)年頃の中絶までの間に『新編武蔵風土記稿』(#22)『新編相模国風土記稿』(#23)など、多くの地誌類が編纂された。この地誌編纂事業に直接携わってきたのは、地誌調出役であり、彼らの多くは昌平坂学問所関係者であったが、武蔵国多摩・高麗・秩父の3郡及び相模国津久井県については、八王子千人同心が現地調査から本文執筆まで手がけていた。土井義夫「八王子千人同心の地誌搜索」では、千人同心がこれらの地域の地誌搜索を担当した理由として、調査地域の地理に明るいこと、江戸から出役させるよりも経費が少なくて済むこと、調査地域には山岳地域があり、地誌調所の役人が廻村するよりも作業効率が高いと考えられたことなどが挙げられている。文化11年(1814)、千人同心千人頭の原半左衛門胤敦が正式に地誌編纂の幕命を受けると、孟縉は編纂人員の一人に選ばれた。孟縉は地誌搜索に協力するかたわら、文政3年(1820)、『武蔵名勝図会』をまとめ、文政6年、昌平坂学問所に献じた。これは全部筆書したもので、重要な地誌資料であるが発行されなかった。これとほぼ同時の文

政7年には『日光山志』を脱稿し、天保7年(1836)に官許を得て、翌年刊行している。文政12年(1829)には『鎌倉攬勝考』(全12巻)を脱稿し、短期間に複数の地誌を著している。鈴木棠三「『日光山志』解説」では、孟縉が『新編相模国風土記稿』の仕事で、地誌調所の役人を案内して調査を行う間に、武蔵国の多摩・高麗・秩父3郡以外でも調査の便宜を得やすくなり、それが鎌倉・江の島にまで及んだことが、『鎌倉攬勝考』成立の背景にあると推察している。

作者

植田孟縉は、医師・熊本自庵の子として江戸で生まれ、植田十兵衛元政の娘婿となったものである。植田元政は、八王子千人同心千人頭の組頭の家筋であった。八王子千人同心とは、江戸幕府の職制のひとつで、武蔵国多摩郡八王子(現・八王子市)周辺の農村に土着していた郷士身分の幕臣集団である。

孟縉は幼い時から学問を好み、大変勤勉家で、人となりは温雅寛厚、容姿端正であったという。文化・文政(1804-1830)の頃、千人町(現・八王子市)に漢学塾を開いた。60歳を過ぎてから、矢継早に地誌を著しているが、生前に出版されたのは『日光山志』のみであった。

80歳を過ぎても老いを知らず、当代一流の文化人と交際往来し、地元では大先生として敬われたと伝えられている。孟縉の著した『武蔵名勝図会』『日光山志』には、因幡国若桜藩主の松平冠山(池田定常)、国学者の屋代弘賢、『新編武蔵風土記稿』を編纂した間宮士信といった名家や学者の序文・跋文が添えられている。また、孟縉は渡辺崋山に師事し、『日光山志』に自ら挿画を描いているが、渡辺崋山や椿椿山など、当代一流の画家も挿画を寄せている。

天保14年(1843)、87歳で病没し、植田家の菩提寺である宗徳寺(八王子市)に葬られた。境内にある文学博士・重野安繹(しげの・やすつぐ)撰文の「植田孟縉先生之碑」には、孟縉の由緒や業績が刻まれている。

内容

鎌倉総説、鶴岡、仏刹、堂宇、廃寺、御所跡並第跡、古城趾というように、地域別ではなく、分野ごとに分けて記述している。特長としては、名勝旧跡の歴史的説明であり、『新編鎌倉志』ではあまり触れられていない足利期以後について精査している。鎌倉の部は巻9で終わり、巻10・11に附録として鎌倉域外の稲村ヶ崎、腰越、江の島、六浦(金沢)についての記述がある。概ね『新編鎌倉志』の記事に拠っているが、他書にみられない記述も見られる。

諸本

東京大学史料編纂所で明治8年(1875)に作成された写本(5冊)を所蔵して

いる他、西尾市岩瀬文庫(12冊)、国立国会図書館(2冊／陸軍文庫、編修地志備用典籍)等で写本を所蔵している。

なお、鈴木棠三「『日光山志』解説」によると、『国書総目録』に孟縉の著書として載せている『鎌倉名勝図会』は異名同書である。『鎌倉名勝図会』の写本は、尊経閣文庫に本文10巻、目録1巻(全15冊)が伝えられているが、「内容文章は『鎌倉攬勝考』と大異無く、いかにかにても別箇の著作とは認めがたい」としている。



構成

叙、凡例、引用書目、総目録

巻1 鎌倉総説

巻2～3 鶴岡

巻4～6 仏利

巻7 堂宇、廃寺

巻8 御所跡並第跡

巻9 第跡、古城趾、墳墓并墓碑、古蹟、岩窟

巻10 附録(鎌倉域外 村名、古蹟、寺院)

巻11 附録(江島、六浦)



史料本文を読む

<翻刻本>

- 「鎌倉攬勝考」(『大日本地誌大系』第5冊 日本歴史地理学会校訂 大日本地誌大系刊行会 1915 [K291.4/327]) (索引あり)
- 「鎌倉攬勝考」(『大日本地誌大系』第19巻 蘆田伊人編 雄山閣 1929 [291.08/2/19]) (索引あり)
- 「鎌倉攬勝考」(『大日本地誌大系(増訂版)』第21巻 蘆田伊人編 雄山閣 1958 [291.08/6/21]) (索引あり)
- 「鎌倉攬勝考」(『新編相模国風土記稿』第6巻 雄山閣 1972 (大日本地誌大系24) [K291/1A/6]) (索引あり)
- 「鎌倉攬勝考」(『新編相模国風土記稿(第2版)』第6巻 雄山閣 1998(大日本地誌大系24) [K291/1D/6])
※ 「新編鎌倉志・鎌倉攬勝考」索引(『新編相模国風土記稿(第2版)』索引篇 雄山閣 1998(大日本地誌大系) [K291/1D/7])



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆ 高木利太「鎌倉攬勝考」(『家蔵日本地誌目録』高木利太 1927 [291.03/3/1])

- ◆鈴木棠三「『日光山志』解説」（『日本名所風俗図会2 関東の巻』鈴木棠三編 角川書店 1980 [291.08/25/2]）
- ◆村上直「八王子千人同心と地方文化：植田孟縉と塩野適斎」（『江戸幕府千人同心 心史料』村上直編 文献出版 1982 [213.6/150]）
- ◆村上直「植田孟縉と塩野適斎」（『江戸幕府八王子千人同心』村上直編 雄山閣出版 1988 [K25.98/17]）
- ◆白井哲哉「八王子千人同心と地誌編纂事業」（『地方史研究』（227）地方史研究協議会 1990 [Z210.05/4]）
- ◆土井義夫「八王子千人同心と地誌搜索」（『八王子千人同心の群像』八王子市郷土資料館編 八王子市教育委員会 1994 [K25.98/34]）
- ◆土井義夫「八王子千人同心の地誌搜索」（『八王子の歴史と文化』（7）八王子市郷土資料館編 八王子市教育委員会 1995 [K20.98/22/7]）
- ◆関幸彦「『新編鎌倉志』と『鎌倉攬勝考』」（『「鎌倉」とはなにか』関幸彦著 山川出版社 2003 [K21.4/32]）
- 『八王子千人同心の地域調査：武蔵・相模の地誌編さん』八王子市郷土資料館編 八王子市教育委員会 2005 [K291/708]

<編者について>

- ◆「『武蔵名所図絵』の著者 植田孟縉」（『八王子を中心とせる郷土偉人伝』清水庫之祐著 文華堂 1921 [K28.98/7]）
- ◆片山迪夫「『武蔵名勝図会』解説」（『武蔵名勝図会』植田孟縉著 片山迪夫校訂 慶友社 1967 [K291.98/21]）
※八王子知新会編「雲夢齋植田孟縉先生略年譜」あり
- ◆「植田十兵衛」（『多摩の人物史』武蔵野郷土史刊行会1977 [K28.98/21]）
- ◆「『日光』の紹介者 植田孟縉」（『八王子物語(改装・改訂版) 中』佐藤孝太郎著 武蔵野郷土史刊行会 1979 [K21.98/61/2]）
- ◆「江戸時代の教育(植田塾)」（『八王子市史(上)』八王子市 1980 [K21.98/59/1]）
- ◆「植田孟縉」（『八王子郷土資料(復刻版)』八王子市教育会編 小林書店 1983 [K291.98/151]）
- ◆「植田孟縉」（『八王子事典』八王子事典の会編著 かたくら書店 1991 [K291.98/166]）
- ◆「千人同心の文化活動」（『八王子千人同心史 通史編』八王子市教育委員会 1992 [K27.98/66/1]）
- ◆土井義夫「千人同心と文化」（『千人のさむらいたち：八王子千人同心』八王子市郷土資料館編 八王子市教育委員会 2003 [K25.98/36]）